

モデルは大人の姿

「校長先生、今日はこんなのが落ちていたよ」と、可愛い声で毎朝私に話しかけてくれる児童がいます。手には、薄汚れ漬れかけたジューズの空缶とお菓子の空袋がありました。

「どうしたの?」と尋ねると、児童は、「歩道橋の所に落ちていたの」と、屈託のない顔で話をしてくれました。

「偉いね、誰かがほかかっていったのを、あなたはわざわざ拾って来てくれたんだね」と、私は褒めたつもり言葉をかけました。

しかし、児童はさほどうれしそうに顔をしませんでした。「不思議だな」と思い、「どう

して拾って来てくれたの?」と続けて児童に尋ねました。すると驚くことに、児童は、次のように答えたのです。

「毎朝、K先生がゴミを拾っていたので、僕も真似をしただけです。」

私は、児童の言葉に、「なるほど!!」と思いました。

K先生は、朝早く出勤し、毎朝晴雨にかかわらず、校地内のゴミを拾ってくれています。K先生のただひたすら毎日ゴミを拾い続けている姿を、児童は毎日心の目で見続けていたのです。

私たち大人は子どもに、「しなさい」とか、「するところが大切なんだよ」と、指示的に話をすることが多いと思います。その時には、子どもは指示したように動きます。しかし、時間が経過したり、相手や場が変わったりすると、子どもは大人が思っているように動かなくなるものです。それは、モデルとしての映像が子ども心に焼き付いていないから



だと思えます。

「K先生が一人でゴミを拾っている姿」の映像を見て、

一人では可哀想だ。僕も手伝わなければ...

・ゴミのないきれいな学校にしよう。

等の考えから、児童はゴミを拾ってきたものと考えられます。

指示的な言葉は、すぐに消えていきます。しかし、大人の姿は、そのまま子どもの姿とそれを支える『価値観』として形成されていきます。

行為は、言葉以上の重みを持つています。子どもに恥ずかしくない姿を、私たち大人は見せ続けていきたいものです。子どもにとつて、私たち大人は一

番身近なモデルです。

松枝小学校

校長 清水 雅裕

教育委員会
だより

ふるさとを直そう

羽島郡四町のウォーキングマップを見られましたか。羽島郡の4つのまちにある文化的価値の高い建造物や自然などを訪ね歩くことができるよう、オールカラーの冊子になっていきます。見どころの写真に掲載し、簡単な解釈を添えてあります。子どもは、何気なく通っていた通学路や寄り道したところをもう一度たどってみませんか。

ふるさとはいろいろな思い出があります。昔田んぼや畑だったところ、木が生い茂っていた広場、神社の境内で遊んだ記憶等々なつかしいものです。また、各町には歴史の重みを感じることができ文化財や文化的価値の高いものがあちこちにありま

そこを巡り、わがまち・ふるさとを再発見しましょう。歩くことは体にとっても良い効果がありますが、心の健康にもお勧めです。お隣さんやクラブサークル仲間を誘い合ったり、諸団体の活動にふるさと巡りを取り入れたりし

て、歩くコースを楽しみながら人とのふれあいを深めることができます。気持ちも充実しますね。また、新しくこのまちに来られたかたは、どこに何があるのかを自分自身で確かめていただくことをお勧めします。お子さんと、ご兄弟で、ご夫婦でと家族単位で歩き、夜の団らんの話題にできれば、まちに対する親しみもわいてきますね。

ウォーキングマップを片手に、多くの人々がまちを歩く文化財について解説したり、歴史を紹介するかがみえる笑顔で会話がはずみ、「ありがと」の声があちこちで聞こえる。そんなまちになるよう、このウォーキングマップを活用してください。

【ウォーキングマップ訂正のお知らせ】
ウォーキングマップの12ページ中、「松枝公民館の電話番号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
(誤) 05833870158
(正) 05833870156